

## 「日本の研究力の危機：問題の現状認識」

- 基礎研究の重要性への認識： 予測困難な変化に迅速かつ適切に対応するため、幅広い分野における多様な学術研究、とりわけ短期的視野にとられない基礎研究の分厚い蓄積が不可欠(基礎研究に取り組む環境悪化、学術の裾野の弱体化、研究時間の劣化)
- 学術の多様性・総合性への配慮： 現代社会が解決を求める様々な課題に学術が貢献するためには、自然科学と人文・社会科学とが連携し、総合的な知の基盤を形成することも不可欠
- バランスのとれた投資の必要性： 基礎研究の充実及び学術研究の多様性・総合性を実現するためには、また、日本の学術の持続可能な発展を確保するためには、基盤的研究資金と競争的研究資金、そしてボトムアップの自由な研究のための研究資金とトップダウンで計画化された研究に対する資金のバランスが重要

### 【1】博士課程学生への経済的支援の拡充等

- 欧米並みの博士課程学生への経済的支援
  - －奨学金等の増加
  - －大型プロジェクトに従事する大学院生を、雇用という形に
- テニュアトラックポジションの増加
- URAや高度技術職員の採用枠拡大
- 産業界や政府部門を初め社会の幅広い分野における多様なキャリアパスの提示及びそれを支援する施策

### 【2】公的研究資金制度全体のグランドデザイン

- 基礎研究を支援する運営費交付金や私立大学等経常費補助金等の基盤的研究経費の維持・拡充、科学研究費補助金等のさらなる拡充、資金配分の再検討
- ボトムアップ型大型研究、長期継続型研究の支援
- 科学技術振興費や各府省における各種の競争的及び非競争的研究資金からなる研究資金制度全体に関して、学術の多様性を考慮した、より適切で真に有効な全体最適なグランドデザインの再構築

### 【3】科学者コミュニティにおける多様性の実現

- 「無意識のバイアス」の排除やライフイベントへの配慮などにより、女性、外国人、障がい者等の研究者の多様性を実現
- それぞれの活躍の場を提供
- 日本の研究力強化に結びつける
- 国際化対応の支援システムの整備
- 国際化の視点から見た若手研究者の支援

### 各項目横断的に

### 【4】科学技術政策への科学者コミュニティの参加 (日本学術会議の役割)